

おはようございます。今年度、最後の朝礼です。卒業式どうでしたか？1年生、小学校と違いますね！？1, 2年生もよく頑張って歌を歌いましたが3年生はより凄かったですね。来年以降も良き伝統を引き継いで下さい。今日から3年生もいないので実質、新年度の体制ですね。そのつもりで生活しましょう。

さて、卒業式当日は東日本大震災5年目でした。昨年の追悼式代表の人の言葉を紹介したいと思います。菅原さんは、当時中3で宮城県石巻市大川地区で生まれ育ちました。次のように語っています。

小さな集落でしたが、朝学校へ行く際すれ違う人皆が「彩加ちゃん！ 元気にいってらっしゃい」と声をかけてくれるような、温かい大川がとても大好きでした。

あの日、中学の卒業式が終わり家に帰ると大きな地震が起き、地鳴りのような音と共に津波が一瞬にして私たち家族5人をのみ込みました。

しばらく流された後、私は運良く瓦礫（がれき）の山の上に流れ着きました。その時、足下から私の名前を呼ぶ声が聞こえ、かき分けて見てみると釘や木が刺さり足は折れ変わり果てた母の姿がありました。右足が挟まって抜けず、瓦礫をよけようと頑張りましたが私一人にはどうにもならないほどの重さ、大きさでした。母のことを助けたいけれど、ここに居たら私も流されて死んでしまう。「行かないで」という母に私は「ありがとう、大好きだよ」と伝え、近くにあった小学校へと泳いで渡り、一夜を明かしました。そんな体験から今日で4年。あつという間で、そしてとても長い4年間でした。家族を思って泣いた日は数えきれないほどあつ全てが、今もまだ夢のようです。

しかし私は震災後、たくさんの「諦めない、人々の姿」を見てきました。震災で甚大な被害を受けたのにもかかわらず、東北にはたくさんの人々の笑顔があります。「皆でがんばっぺな」と声を掛け合い復興へ向かって頑張る人たちがいます。

日本中、世界中から東北復興のために助けの手を差し伸べてくださる人たちがいます。そんなふるさと東北の人々の姿を見ていると「私も震災に負けてないで頑張らなきゃ」という気持ちにいつもなることが出来ます。震災で失った物はもう戻ってくることはありません。被災した方々の心から震災の悲しみが消えることも無いと思います。しかしながらこれから得ていく物は自分の行動や気持ち次第でいくらにでも増やしていける物だと私は思います。

前向きに頑張って生きていくことこそが、亡くなった家族への恩返しだと思い、震災で失った物と同じくらいの物を私の人生を通して得ていけるように、しっかり前を向いて生きていきたいと思っています。

最後に、東日本大震災に伴い被災地にたくさんの支援をしてくださった皆様、本当にどうもありがとうございました。

震災から5年… 関西では… 今一度、被害にあった方々への思いに近づくにはどういう、気持ちが必要でしょうか？ そして、災害への備えを…

3/25（金） 修了式まで2週間です。立つ鳥跡を濁さずで残りの2週間しっかり生活して来るべき新年度は、より一層高みを目指しましょう…！